

# 平成 28～30 年度 大島地区研究協力校「道徳教育」 喜界町立喜界中学校 公開研究会

平成 30 年 10 月 10 日 (水) 公開

**研究主題** 自他を尊重し，共に高め合える生徒の育成  
～「特別の教科 道徳」への移行を踏まえた道徳教育の充実を通して～

## I 研究主題・副主題の捉え方，仮説，視点

<b>主題・副主題 の捉え方</b>	「自他を尊重する」とは	自分の意見を持ち，それを大切にしながら，対話をする過程において，他者の意見を共感的に受け止め，更に考えを深めること。
	「共に高め合える」とは	対話を通して，自分だけでなく他者と共に道徳性を高め合うこと。
	「移行を踏まえた道徳教育の充実」とは	評価の在り方を検討するとともに，考え議論する道徳の時間を具現化すること。

**<目指す生徒像>**

- 様々な道徳的価値に対して，自分なりの考えをもつことができる。
- 自分の考えを，表現方法を工夫しながら他者に効果的に伝えることができる。
- 他者の意見を受け止め，自分の考えと比較しながら，共感的に理解することができる。
- 自分の考えと違う考えに気付き，対比させながら，考えを練り上げることができる。
- 道徳の授業を通して，これまでの自分自身を振り返り，よりよい道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を身に付ける。

**仮説 1**

「特別の教科 道徳」への移行を踏まえ組織的な指導体制や指導の在り方を確立させることで，道徳の授業設計が工夫でき，評価もより客観的・計画的にできるのではないかと。

**仮説 2**

話し合い活動の充実を図り，自分と他者の考えを比較させることで，自他の違いに気付き，よさを認めながら，相互理解を深めることができるのではないかと。

**視点1** 教師が明確な意図をもった授業構想

- ① 全職員によるローテーション授業
- ② 自覚化につながる中心発問の工夫
- ③ 教科化に向けた評価の工夫

**視点2** 生徒が多様な価値観に触れ，共に学び合う場の設定

- ① 話し合い活動を活性化させるための工夫
- ② 家庭との連携

## II 研究授業及び全体会・分科会のように

第一学年	研究授業	分科会	全体会 I (開会行事)
第二学年			研究発表
第三学年			全体会 II (指導講話)

〔研究公開に参加された先生方より〕

- 話し合い活動を通して，仲間に自分の意見を認めてもらったり，様々な意見を知ったりと，お互いの考えを共有することで，自己肯定感を高めながら授業が展開されていてよかった。
- 全職員が一体となった取組を自校化できるように参考にしていきたい。
- 生徒が生き生きと活動している姿に感動した。
- 自分の授業の進め方が偏っていたのではないかと考えさせられました。道徳の授業を成立させる大切な要素として，日常のしつけや気配りがあることに気付いた。
- 素晴らしい授業・発表をありがとうございました。授業をこんなふうになりたいと思うような，活気ある子供たちの表情の授業だった。
- ▲ 道徳の重点指導内容項目，評価，別業等，学校全体の3年間の変容が見られれば更に良かったかと思う。
- ▲ 喜界中学校の先生方との意見交換の時間が，もう少しほしかった。